



第145号

令和2年10月1日発行
発行所
長崎大学玉園同窓会
〒850-0029
長崎市八百屋町36番地
☎095-824-5494
発行人
濱崎嘉一郎
(株)昭和堂

人になれ人、人になせ人



玉園同窓会 理事

木村 晃 一

退職して20年余。人生の下り坂にさしかかった。これまであちこちの学校や地域で、多くの子ども、保護者、上司、先輩、同僚等に出会い、多くのことを学び、教えられて来た。心に残っているいくつかを思い出してみた。

生きる力を育てる母親

ある学校での授業参観の日。家庭科の授業でカレーライスを作る実習場面に出合った。ジャガイモの皮むきに苦労する子が多い中、みごとに包丁さばきで黙々ととりくんでいる女の子にひきつけられた。後でその

子の母親に家での状況を聞いて感服した。「わが家には高2、中3、小6の娘3人がいます。3人に炊事、洗濯、掃除を1週間ずつ交代でさせています。私も子どもの頃、親から厳しくしつけられ、それが今に生きています。特に掃除については、『床の光は心の光、そこに住む人の答案である。』と言われますので、私も子どもと共に汗を流しながら厳しくしつけています。」

温かく子どもを見守る母親

炭鉱の町の学校のある母親。娘が夜遅くまで勉強するので、そばにいてつきあっています。私は勉強のことは全くわかりませんので、そばにいて針仕事をしながらつきあうだけでした。娘は「お母さん寝ていいよ。」と言いますが、そばにいただけで私の心が安まるのです。若かった私の心に残っている母親の姿です。

厳しくしつける母親

学校給食会にお世話になった時のこと。全農連が募集する食に関する子どもの作文に目をひかれた。

「僕の母は食事のたびに、ごはんは一粒も残すなと厳しく言う。残すとひどくしかられる。あまりにやかましく言われるので、ある日、自分の茶わんの米つぶを根気よく数えてみた。何と僕の茶わんに3千2百つぶの米が入っていた。日本の人口は1億2千万人と聞いた。日本人全部が一つぶずつの米を残すとすれば、1億2千万粒になり、それは茶わん4万杯になる。母が一つぶも残すなという意味がわかった。その後僕は米は一つぶも残さないことにしている。」

この子の作文に教えられると同時に、宮城県の民謡「米節」を思い出した。

「米という字を分析すればよー八十八たびの手がかかる
お米一つぶそまつにやならぬ
米はわれらの親じゃもの」

上司、先輩等との交流に感謝

20代、30代の若い頃の学校生活は楽しかった。ゆとりがあった。職員体育で汗を流したり、職員作業で教

材作りにとりくんたりしながら、物作りの手順や工具の使い方を学ぶなど、以後の教員生活の基礎を多く学んだ。校長はじめ先輩や仲間と語り合う機会も多かった。そんな語りの中で、なるほどというなづき、参考になることも多く、後でメモして残した。

「最も優れた教師とは子どもと共に笑う教師。最も悪い教師とは子どもを笑う教師」

「人間1日に4回の飯を食え、1回は活字の飯を」

「人多き人の中にも人ぞなき、人になれ人、人になせ人」等々。

教師としての人になれとは、指導力を身につけることであるという校長の方針のもと、週1回の授業研究を課せられた。

本時の目標、展開案を用紙1枚に書き、校長と教頭に参観してもらい、放課後、校長室で2人に指導を受けるといふ形で鍛えられた。

ほめられることはほとんどなく厳しく指導されることが多かったが、大変参考になることが多かった。できるだけまじめにとりくんた。なつかしい思い出である。

「人生はめぐり合いの連続である。そのめぐり合った相手から何を吸収し、わが身につけたか、その収支決算表がその人の人生である。」という作家、吉川英治氏の言葉をかみしめながら下山の道を歩いている。

別企画

乗り越えよう・コロナ禍

コロナに想う



福岡市 ふなこし内科・循環器内科院長

船越

はじめ

この度、同窓会誌「たまごの」に寄稿させていただく機会を得ました。「玉園同窓会」事務局からは、医療関係の専門誌に載せるものではないので、できるだけ平易な内容で、しかし、医者としての「新型コロナウィルス」という感染症への見立て、また、あるべき対応を思い切っ書いてほしい、と言われました。拙稿ではありますが、御一読いただき、広く諸賢の御意見を賜れば有難く存じます。

不運だが幸運

コロナの正体が少しづつ明らかになってきました。今回、私の見解を率直に表現いたします。「まだ幸運だ」です。何と唐突な一と思う方もいらっしやることでしょう。でもよくお考え下さい。①空気感染はほぼ無い ②8割程度が軽症で済む ③死亡率が格段に高いというわけでは

ない、子供たちの致死率は極めて低い ④自粛などの対策で制御がある程度可能。これがコロナの特徴です。エボラウィルスのように致死率が3-5割にも及んでしまうウィルスであったらどうか。今回は本当に幸運であったと思いませんか？ただしストレスを強いられる現況が続くのは受け入れられません。「究極の目標」であるワクチンや特効薬の開発を待つしかありません。よって残念ながら少なくとも3年は今の生活が続くと考えています。しばらくはCOVID-19の時代になるのです。それでもやはり私は「まだ人類は幸運」と思っています。

感染の拡大抑制にはモニターが必要

感染者がまた増えつつあります。とかく感染者の数が話題になりがちですが8割は軽症であるというこの病気の特徴を踏まえ、私は死亡者数と医療機関の空きベッドの数(これは重症患者数と比例)を指標に経済を回していく方法が現実的だと考えます。とは言っても感染者の把握は

必要です。診断法ではPCR検査が王道ですが何かと手間がかかる。そこでより簡便にPCR検査を行える方法や、私が働いているようなクリニックレベルでも安全に・簡単に検査できるキットの開発が待たれます。PCRの精度は7割と低く、キットのそれもさらに低いため信用できないという意見もあります。しかし私はこれらを組み合わせ、症例によっては翌日に再検査することで解決できると考えます。また必要であれば症状の経過や肺のCTを参考にすることで「現時点では陰性ですが安心出来ません。だからしばらく自宅安静を」というような助言が出来ます。疑わしい患者も含めて適切な方向に導き、しっかりとモニターすることで感染が拡大することを防げるのです。プライバシーや偏見の問題も生じるでしょう。しかし狡猾なウィルスに打ち勝つには必要かつ有効な方法であると私は確信しています。

サイエンスを活用する

それでは感染を避けるには日々どのような対策をとるべきでしょうか。まずは感染する機会を減らすことです。うがい、手洗いなどに加え「3密を避ける」は当たり前のことになりました。もう少し踏み込んだ指針が欲しい。そこで私が考えるのはAIの活用です。既に創薬分野で活躍しているAIですが感染を減らす手立ての発見にも有用かもしれません。例えば学校という特殊な現場ではどうでしょう。ウィルス粒子が拡散す

る動態や付着した部位(例えば机)での生存時間に影響を与えうる気温、湿度、風の強さなどはその日その日で異なるはずですが、これらを多面的に解析し「日替わりの」対策、例えば教師-生徒/生徒-生徒の間隔、換気の回数などを弾き出すのです。条件が良ければ「今日は少々密になる集団活動が可能かも(例えばバスケットボール)」という話になるのかもしれない。ごく一例ですがコロナに対抗するにはサイエンスが活用できるはずですが、人類が発明したAIやスーパーコンピュータをフルに用いて有効な対策が導き出されることを期待しましょう。

終わりに

6月初旬、私が県内の山奥で趣味のヤマメ釣りに興じていたまさしくその時に、執筆の依頼のお電話を頂きました。清流から見える緑萌える山々、茶畑など牧歌的な風景を目にする。「我々が苦しんでいるコロナ騒動は幻想ではないのか？」疑ってしまうほどののかさです。戦時中に疎開していた子供たちもおそらく同じような思いだったことでしょう。COVID-19はまだまだ続きます。野球で言えば3回が終了したところでしようか。気が重くなりますが人と人、国と国の連携を密に取りながら英知を結集させてコロナに対抗しましょう。この問題を人類はきっと解決できるはずだと信じております。その日が来るまで新しい生活様式に慣れながら精一杯生きましょう。

放送室からの修了式



長崎市立銭座小学校長

平川 敏博

①「修了式」及び「離任式」は、放送室から行う。

②「修了式」後、校長が各教室を回り、代表者に通知表を渡す。

令和2年3月2日の校長会で、臨時休業・登校日・そして、修了式・離任式についての指導連絡がありました。ある意味、この日を境に今も

続く「新型コロナウイルスとの戦い・共存」が始まったと言えます。

休業中に「修了式」の形式などについて、協議を重ねました。もちろん、近隣の学校の情報、同規模の学校の情報を集めました。

内容の精選・時間短縮は、すぐに計画できましたが、問題はいかにして「3密を防ぐ」かということです。本校の体育館は児童数に対して、十分な広さがあります。しかし、「3密」を完全に防げるとは言いきれません。

そこで、「3密」対策として、全職員で準備を進め、次のことを行いました。

③各教室も机と机の間を離すため、20人以上の学級は、半分にあたる児童机をワークスペースに出す。

ただ、「離任式」は、転出される先生方にとっては、児童への最後のメッセージを送る場です。私も「対面して、行かせたい」という気持ちがありました。しかし、転出の先生方は対策の意を汲み取ってください、早く承知してくれました。

このような中、おそらく全職員が誰も経験したことのない「放送室からの修了式・離任式」を行うことになりました。

「本当にこの方法でよかったのか」という思いはあります。しかし、児童にとって、その時の最善の方法は何かを常に模索しながら、これからは職員と共にこの難局を乗り切っていくように思っています。

コロナ禍と青空入学式



長与町立高田小学校長

宮本 昭雄

前例なき令和2年度が始まる2週間前。元年度の離任式を運動場で実施しました。本校を離任する職員と子どもとの最後の別れはやはり対面で！との思いからです。

新年度の入学式。当初入学式は規模を縮小し内容も縮減して、体育館で実施する予定、ところが、前週金曜日に町教委から示された参加者の座席間隔基準は1・8M！保護者を一人に限定して実施するしかありません。

ただ、2週間前の離任式の爽快感と「入学式は親子の一生の記念」という思いが運動場での実施に考えを至らせました。予報を見ると晴天◎。金曜の夕方、学校に戻り関係職員に相談すると、皆が賛成してくれました。即町教委も賛同してくださった。よし運動場で行こう！

ところがこれで終わりではない。ここから校内での入学式改革が始まった。3密回避のため、受付場所、

担任挨拶や教科書等の配布物伝達、入学記念写真等々。何が必須で、何が省けるのか？中心にあったのは「はじめに子どもありき」の本校の基本理念でした。児童と保護者にとって、何が一番大切か？ここに揺るぎのないことが、本町そして本校の一番の強みです。

受付は児童玄関前、配布物は保護者席に一袋にして配置。教室への入室は一切無くし、記念写真はコロナ禍収束まで延期。間隔が大きく空くため、児童の隣には保護者に並んで座っていただきました。

当日は予報どおり快晴。運動場のフェンスの先には、近隣の高田保育所の桜が満開で文字通り花を添えてくれました。校歌斉唱では、校舎に控えた在校児童が、各教室から運動場に向かって校歌を熱唱してくれました。

校長の思いつきを現実のものにしてくれた職員、急な変更にも快く応じてくれた保護者の皆さん、全面的に応援してくださった長与町教育委員会、全ての皆さんに感謝感謝の青空入学式でした。

異例の臨時休業



吉岐市立瀬戸小学校長

末永 統子

「校長先生、コロナはどこにいますか。」と尋ねる子どもにも、現状と対策を話し、みんな、前向きに、力を合わせて頑張っていることを称え合う1学期間でした。

吉岐市では、新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休業のため、今年度の始業が遅れました。

私は、児童や職員を「守る」「伸ばす」を学校経営の理念としています。今回の異例の事態は、感染症から「守る」と、「伸ばす」ために様々な教育活動を展開すること、特に、新年度の「希望と期待に満ちた思い」や「出会い」を大切にするために、これまでにない決断と実践の日々でした。

その間、市教育委員会の御指導、保護者の御理解を得ながら、臨時休業中の登校日として、着任式と始業式を。その翌日には新1年生と保護者、数名の来賓での入学式を挙行し、

入学式への出席を望む在校生の思いを受け、6年生の歓迎のメッセージ、全校児童の歓迎の歌や校歌斉唱を録画し、体育館の壁面に投影して、計画時の式次第どおりに実施。

また、臨時休業中の過ごし方や学習の指導、家庭への連絡メールの配信、地域に出向いての支部担当教諭による児童の健康観察、学校からの文書やマスクの配付、保護者に自家用車で来校してもらった教科書等の配付、PTA総会議事の書面決議。

国の緊急事態宣言解除後の夕刻には、会員100%の出席によるPTA全体会（校内放送による）や学級懇談会の実施等々。

学校と保護者が一丸となって、一つ一つ大切に、思いを込めて行うことができたことは、感謝の念に堪えません。

8月7日、第1学期が終業しました。感染症対策をしながら、日々の活動に全力で取り組んだ子どもたちを大いに称えました。そして、職員の対応に感謝の気持ちを伝えた1学期でした。

さあ、オンラインをはじめよう



長崎市立南小中学校長

岡田 政宏

新型コロナウイルスの影響で4月に再び学校が休校となった際、本校では、在宅の子どもに向けてのオンライン学習をスタートさせました。

使用したのは、web会議システムZoom。

いざ実践が始まると、子どもも教師もどろん機器の使用に慣れ、さまざまな工夫も盛り込まれていきました。「学校と家庭」のみならず、在宅勤務をする教師との「家庭と家庭」の学習も十分に成立することが実証できました。さらに、毎日オンラインで会議も実施し、在宅勤務者が自宅から資料を提示したり、説明を加えたりと、通常の職員会議と遜色ありませんでした。職員からの評判も上々。

本校は、児童生徒数が少ない極小規模校。使用した端末も教育委員会

から配当されていたものでほぼ事足りました。インターネット環境がない家庭についても、近隣の家庭の協力や教室開放によってクリアできました。多くの学校では、この2点により、オンライン学習の実現が難しかったものと思われれます。

しかし、次をやってくるかもしれない、感染拡大の第2波の時にはどうでしょう。端末の1人1台の整備は年度内に前倒しになったので、早ければ端末事情は解決します。分散登校や教室を分ける工夫も認められました。大切なことは、いつ動き出すか、誰が動き始めるかです。校長がリーダーシップを発揮して、今から歩みを進めていきましょう。多額の税金を投入して、場を整えたのに「まだ、できません。」はNGです。

本校では、次のステップ、「GIGAスクール」に向けてのクラウドシステムの活用には舵を切りました。非常事態の時だけでなく、日常から学び方が変わっていきます。

新型コロナウイルス対策下での学力保障



長崎市立片淵中学校長

森 浩 司

本年3月から5月にかけて繰り返された臨時休校。これによる授業の遅れをいかに回復するか。今後危惧される第2・第3の感染拡大の波にどのように備えるか。見通しの難しい中であって、生徒たちの命を守ることに重要な課題が、確かな学力保障である。

本校では、次の3つを共通実践の指針に掲げ、対応に努めている。

- 当該学年の大事な学習内容を絶対にやり残さない。
- 評価の在り方を見つめ直し、指導と評価の一体化を図る。
- 自ら学ぶ力や学び方が身に付く授業を心がける。

各教科の授業時数が最終的に標準時数を下回ったとしても、当該学年で確実に学ばせ定着させなければ、次学年（高校進学後を含む）で困るような学習内容の未履修は絶対にあってはならない。これは5月の学

校再開後、私が真っ先に職員に指示したことである。単元間の関連や優先順位、時間のかけ方や扱い方等、思い切った工夫と実践の必要性を確認し合った。

一方、遅れを取り戻そうと指導が「詰め込み」に走ることが心配される。私は、あえて評価の意義について再確認を行った。国立教育政策研究所が提示した「内容のまとまり」との「評価規準」を踏まえて授業を行う、各内容の理解や定着度の確かめと個に応じた指導に力を注ぐなど、指導と評価の一体化に一層努めるよう求めた。

秋以降、再び臨時休校とならないことを誰もが願っている。しかし、備えは必要である。私の頭に浮かんできたのは、今ではすっかり聞かれなくなった平成初めの流行語「自己教育力」であった。学校と自宅を結ぶオンライン授業が話題となる中、あの頃の教育が目指していたものを再確認したい。そう思うのは、私だけでしょうか。

コロナ禍とこれからの学校



長崎市立稲佐小学校長

富野 聡

コロナ禍における学校で考えさせられたことがたくさんありました。その一つが学習保障と言えます。臨時休業になって最も困ったことが、家庭での学習保障でした。今後また臨時休業になるかもしれないということをご想定すると、有効な家庭学習の在り方を考えておく必要があると思います。その方法の一つがオンライン指導を用いた家庭学習だと思

います。以前、長崎大学教育学部附属小学校で校長を務めていた頃、あるデジタル教材をモデル校として期間限定で活用していました。これには、次のような特徴があります。

- ・子どもに解かせたい範囲を選択するだけで、自動的にドリルが子どもたちのタブレットに配信される。
- ・瞬時に自動採点し解答は分析され、その子に合った苦手を克服する問

題や、さらに理解を深めるための推奨ドリルが自動配信される。子ども一人一人の進行状況、理解度が可視化され、個人別にデータとして教師は見る事ができる。

コロナ禍における今後の教育活動では、オンラインを有効活用できるようなハード面の充実が急務のように思います。

また、我々教師は、新しい生活様式を踏まえたうえで、様々なことに対応できる学校づくりが必要だと思っています。

これからは「コロナと共存の社会」とも言われ、ちまたでは9月入学の声もささやかかれ、GIGAスクール構想も持ち上がるなど、学校教育システムが大きく変わろうとしています。授業づくり・学級づくり・人間関係づくり、そして行事づくり等、これまでの経験と英知を集結して、子どもの命と学びの保障をめざしポストコロナに向けた学校づくりを頑張っていきましょう。

わたしの教育実践

心の輪をつなげる



長崎市立小榊小学校 山口 春華

「心がいいと思います。」みんなの心をつなげていきたいからです。」

私は学級づくりの中で、「学級目標」を子どもたちと共有することを大事にしています。私が提案した学級目標を決める話し合いの中で、こんな意見ができました。ほかの子どもたちからも「いいね。」「すてきだね。」の声が多く上がり、学級目標が「心」に決まりました。

どのようにして心をつなげよう？これを考えるのが、わたしの役目です。まず、どんな心を育てたいかを具体化することにしました。子どもたちの様子を観察し、「優しくする心」「思いやる心」「認め合う心」の3つの心を1年間で育てていこうと決めました。心をつなげる方法を考え出したとき、子どもたちの良い行動を多く見かける機会がありました。これをただ言葉で伝えても、いつかは忘れてしまいます。ならば、残る

形にしようと考えたのが「心の輪をつなげよう」という取り組みです。

良い行動をしていた友だちや、してもらって嬉しかった行動を短冊に書いて、友だちに送ります。短冊は輪飾りにして教室に飾っていきます。最初はちらほらだった短冊も、少しずつ増えるのを見た子どもたちが嬉しそうに短冊を書き始めました。もらって嬉しかった子が、次は自分が書こうと行って、友だちに渡すようになりしました。たった2ヵ月間で、些細なことから、学校に関わる大きなことまで、230あまりの心の輪がつながりました。子どもたちが優しい心を持ち、人を思いやり、互いを認め合うことができるようになっていく証が、この長い短冊の輪に詰まっています。

短冊をしみじみとながめた子が、「みんなのいろんな心がこんなに集まって嬉しいね。」と言ってくれました。そんな教室で過ごす子どもたち一人一人の心の成長を大切にしながら、これからも子どもたちと共に心をつないでいきたいと思っています。

生徒を輝かせることのできる教師



松浦市立志佐中学校 中 谷 美 音

私の理想の教師像は「積極的指導ができる教師」です。

これは、大学時代からの目標でもありましたが、勤務校におられる先生の姿を見て、「私も生徒を輝かせることができる先生になりたい」と更に思いを強くするようになりました。

しかし、実際には消極的な指導が多く、眉間にしわを寄せている日々がありました。その先生は、「常に先を見通して、今何をすべきかを考え、担任として、生徒が主体的に動くように仕組む。そしてその姿を賞賛・承認し、集団の質を高めることで、学級自治を醸成する」と教えてくれました。

漠然と「とにかく褒めて伸ばそう」と考えていた私は、生徒を褒めるためには、教師の意図的な働きかけが肝心であり、先生方は私の知らないところで生徒への様々なサポートをしていたのだと気づきました。今、私が学級経営において実践していることは、学級開きの際に、学

校や学級での約束事を確認し、ルールの必要性を一緒に考えます。その話から、集団で生活する上で大切にしたいことを伝え、協力して楽しい学級を作ろうという話をします。そして定期的に、各部の部長や学級委員を招集し、学級の伸ばしたい点や改善点について話し合います。改善等を考えた後、生徒の呼びかけや担任の働きかけで改善をはかります。

学級の問題を自分のこととして捉えるだけでなく、リーダーの育成や所属意識を高めることと共に、学級自治について伝授していきます。

目標としている「積極的生徒指導」ですが、若輩者の私は実現できている場面が少ないです。しかし、生徒のために頑張りたいと思うことが、私自身の教師として伸びるための努力を支えてくれているのだと思います。

これからも生徒とともにあり、学び続ける教師でありたいと思います。



母校だより

日本印刷

コロナ禍に学ぶ

長崎大学教育学部長 松元 浩一



昨夏は梅雨入りが遅れ、今夏は梅雨明けが遅れて秋を迎えました。新型コロナウイルスが全国各地で猛威をふるう中、教育学部同窓の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

コロナ禍が拡がり三密の回避、不要不急、自粛、濃厚接触、PCR検査等のことばがすっかり日常化してしまいました。最近では文学の領域では「疫病文学」という言葉も耳にします。身近な所ではダニエル・デフォー『疫病流

行記』、エドガー・アラン・ポー『赤死病の仮面』、アルベール・カミュ『ペスト』など、言われてみれば、疫病を扱う文学作品（や絵画等）は古典まで遡ると相応の数が存在するようです。こうした作品では、デフォーに代表されるように、ジャーナリストティックな視点で事実を切り取ってそれが筋の中に調和的に埋め込まれることが屢々です。似たような記録は、西洋の年代記や日本の風土記にも見られます。

東日本大震災後に風土記、歳時記、石碑文に書き記された津波災害の記憶が再検討された時期がありました。「歴史は記憶である」という視点に立つとき、本県の平和教育を初めとして、過去の記憶からわたしたちは多くのことを学べそうです。例えば、記憶は地名にも多く残っています。民間伝承では、塩釜は「潮が嘔むところ」、釜石は「潮が大岩を嘔むところ」、塩越（秋田県象潟町）は「潮が越えて来るところ」と言われ、潮は津波を意味します。小

名浜は「男波浜」、女川は「男波川」であり、男波も津波のこと、津神社（相馬市）は「つのみつ」神社と読み「津波が満つる」ところです（補原祐介『災害地名学』（岩波新書）参照）。歴史は記憶であり、記憶に学んで未知のウイルスに向き合い、自然への畏れを記録として後世に残したいものです。畏れは訓話の教育観にも息づいていることを当研究科の実務家教授の先生に教わりました。子どもに教える時は、自然に向き合う時と同じく、畏れることを学んだ上で、畏れを抱いて教壇に立つことが大切であるというものです。歴史を顧みてコロナ禍に自然や教育への畏れを学び、皆で一緒にこの難を乗り越りたいものです。

閑話休題。令和二年度前期（四月から九月まで）の主な彙報を記します。令和二年四月一日に六名の先生が、九月一日に一名の先生が新たにご着任になりました。人間発達講座に木村国広教授（学校教育）、西村大介准教授（特別支援教育）、山岸利次准教授（道徳教育）、中等教育講座に松田康雄教授（幾何学）、附属中学校に山田喜彦校長、附属幼稚園に室野亜津子園長です。今後のご活躍、ご健筆を祈念申し上げます。

本年四月より教育学部の教員組織を義務教育開発、中等教育、人間発達の三講座に、二十二の学部等運営に関する諸委員会を十に改編致しました。教員の事務分掌の負担を幾らかでも軽減し、組織運営の効率化を図ることがその目的です。

最後は、協働研究体制の構築についてです。長崎県の第三期教育振興基本計画（二〇一九―二〇二三）を念頭に置いて、長崎県教育委員会、附属学校園、本学部・研究科が連携して協働研究のためのプラットフォームを構築しました。その協働研究では「ふるさと教育」、「読解力向上」、「GIGAスクール構想」、「学習指導要領改訂に伴う授業づくり」を主たる教育課題に掲げ、本県や地域のニーズに応える研究を促進してまいります。長崎大学教育学部、大学院教育学研究科（教職大学院）、附属学校園は一体となって、引き続き、長崎県の教育に貢献いたす所存です。末尾になりましたが、秋になって気温の低下とともにコロナ禍の拡大が懸念されるおりです。教育学部同窓お一人おひとりが、どうか御無事で御活躍いただきますよう念じております。

令和2年度 総会報告

日時 令和2年8月30日(日)

13時30分～15時

場所 長崎市立桜町小学校内

(地域、学校交流センター)

出席者 顧問・参与・理事・監事・幹事・地区委員

会員4800名

出席者38名

委任状2990名

第1号議案(令和元年度の事業報告)

事業報告

1 令和元年4月、長大新入生・終身会員への入会案内文書発送

2 会報の発行(年2回)

143号(10ページ)

「万葉集と長崎」

虹の原特別支援学校

教頭 中島恵美子

主題「新学習指導要領の具現化を目指して」

テーマ「未来へつなげる力を育む

国語科授業の創造」他1点

特別寄稿「令和を迎えて」

144号(10ページ)

主題は前号と同じ

テーマ「自ら問いを立て、解決を

目指す児童の育成」他1点

3 教育学部との連携

ホームカミングデーへの参加等

4 一般社団法人としての公益事業

①教育セミナー(教職公務員採用

受験者への指導助言、模擬授業、

面接試験の受け方指導)

②卒業生への玉園同窓会賞の授与

サークル活動への支援(美・音・

理科専攻生)

③青少年育成事業(2団体を助

成)

④学校図書購入・助成(県内5校

助成)

5 地区懇話会の実施(令和元年12

月14日(土) 佐世保ワシントン

ホテル、参加者 松元浩一教育学

部長他22名)

決算報告

次ページに掲載

第2号議案(令和2年度の実業計画

案・予算案の審議)

事業計画

(案)

1 会報の発行145号・146号

(各4700部)

2 地区懇話会の開催については、

西海地区を予定していたが、コロナ禍のため中止

3 一般社団法人としての公益事業

推進(学校図書購入助成・修学、

就業支援・青少年健全育成事業)

予算案

次ページに掲載

第3号議案(役員の変更)

玉園同窓会役員の変更について定

款の規定により、退任及びその後

任者が就任

役員紹介

—令和2年度—

敬称略

(顧問)

松元 浩一(長崎大学教育学部長)

小田 恒治(長崎県教育会理事長)

(参与)

小西 峯一(OB・S28)

宮地 計(OB・S30)

山崎 滋夫(OB・S37)

(法人理事)

(会長理事) 濱崎嘉一郎(OB・S39)

(副会長理事) 野田 和宏(OB・S43)

(法人理事) 村上 光子(OB・S38)

() 西平 千治(OB・S38)

() 中嶋 将晴(青雲中高校長)

() 中川 幸久(教育学部教授)

() 池田 浩(教育学部教授)

() 森 浩司(片淵中学校長)

() 上西 誠(橘小学校長)

() 池田 敏彦(桜町小学校長)

() 菅藤 大三(三原小学校長)

() 濱田 浩一(長与小学校長)

(事務局長) 野中 元則(OB・S39)

(監事) 島崎 賢一(OB・S41)

牛津 武聰(OB・S43)

有川 政秀(OB・S44)



令和元年度 収支計算書 (令和元年4月1日から令和2年3月31日) (単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
1. 収入の部				
(1) 入会金収入	750,000	600,000	150,000	5,000円×120名
(2) 会費収入	2,300,000	2,356,027	△56,027	{ 1,000円×2,261名 5,000円×19名
(3) 雑収入	10	4	6	
(4) 繰入金収入	2,000,000	2,200,000	△200,000	基金会計より繰入
当期収入合計(A)	5,050,010	5,156,031	△106,021	
前期繰越収支差額	828,422	828,422	0	
収入合計(B)	5,878,432	5,984,453	△106,021	
2. 支出の部				
(1) 事業費	3,143,000	2,812,300	330,700	会議費・会報発行費など
(2) 管理費	2,705,432	2,782,091	△76,659	借料・光熱水費など
(3) 固定資産取得購入支出	0	0	0	
(4) 繰入金支出	30,000	30,000	0	退職積立金特別会計
当期支出合計(C)	5,878,432	5,624,391	254,041	
当期収支差額(A)-(C)	828,422	△468,360	360,062	
次期繰越収支差額(B)-(C)	0	360,062	360,062	

令和2年度 一般会計収支予算書 (令和2年4月1日から令和3年3月31日) (単位:円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
1. 収入の部				
(1) 入会金収入	450,000	750,000	△300,000	5,000円×90人 ※入学者定員60人減
(2) 会費収入	2,300,000	2,300,000	0	{ 1,000円×2,200人 5,000円×20人
(3) 雑収入	10	10	0	
(4) 繰入金収入	2,600,000	2,000,000	600,000	基金会計より繰入
当期収入合計(A)	5,350,010	5,050,010	300,000	
前期繰越収支差額	360,062	828,422	△468,360	
収入合計(B)	5,710,072	5,878,432	△168,360	
2. 支出の部				
(1) 事業費	2,903,000	3,143,000	△240,000	公益事業関係含
(2) 管理費	2,767,072	2,705,432	61,640	借料・光熱費など
(3) 固定資料取得購入支出	10,000	0	10,000	電話機
(4) 繰入金支出	30,000	30,000	0	退職積立金特別会計
当期支出合計(C)	5,710,072	5,878,432	△168,360	
当期収支差額(A)-(C)	△360,062	△828,422	468,350	
次期繰越収支差額(B)-(C)	0	0	0	

動いています同窓会

令和2年度 図書購入費助成校

本年度の図書購入費助成校は、長崎市立小江原小学校・長崎市立香焼小学校・諫早市立高来西小学校・平戸市立山田小学校・長崎市立三和学校です。



山田小学校



小江原小学校

就職支援事業

教育・研修部による就職支援事業を、次の要領で行いました。

- ・期日 7月30日～8月23日
- ・場所 長崎大学教育学部
- ・内容 個人面接・集団討議
小論文 等
- ・人数 延べ1463名



教育学部慰霊の日

長崎は8月9日、被爆から75年の節目となる「原爆の日」を迎えました。例年営まれていた「教育学部原爆殉難慰霊祭」は、コロナ感染拡大防止のため、やむなく中止となりました。

会員そろって慰霊の言葉を捧げることはできませんでしたが、会長はじめ会員・事務局が、各人お参りしました。原爆投下時刻11時2分に黙とうし、各々御霊に哀悼の意を捧げ、恒久平和を祈りました。教育学部の職員の方には、大変お世話になりました。



ホームページを開設しました

本同窓会は、一般社団法人として、その活動状況や公益目的事業について、会員の理解をはかることはもとより、それ以外のより多くの人々に知っていただきたく、ホームページを開設いたしました。今後の本同窓会の運営にあたって、大いに活かし新たな同窓会活動をめざしてまいりますので皆様の御活用をお願いいたします。

ホームページアドレス

<https://www.edu.nagasaki-u.ac.jp/ja/tamazono/>
メールアドレス nu-tamazono@mxb.cncm.ne.jp

一事一務一局より

年度当初計画していた事業・活動が、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、やむなく中止・縮小するに至りましたことをご了承下さい。

- 中止の事業
 - ・地区懇話会
 - ・教育学部原爆殉難慰霊祭
- 縮小の事業
 - ・就学支援事業
 - ・図書助成費事業（贈呈式）
- 延期の事業
 - ・6月の定期総会を8月30日に